記者発表資料

平成２０年８月２５日
福島河川国道事務所

忘れていませんか・・・・・１０年前の災害
平成１０年８月２７日の豪雨災害から１０年

日頃からの備えが防災につながります。

今年の8月27日は、福島県内をおそった記録的な豪雨災害から10年目の日にあたります。

平成10年8月末、東北地方に停滞していた前線が台風4号の影響により活発化し、26日から9月1日にかけて阿武隈川上流の福島県南部を中心に豪雨となりました。
この豪雨は僅か6日間で年間総雨量の75%、8月の白河地方の平均月雨量の6.3倍という観測史上類のないものでした。
豪雨による被害は中通り全域に広がり、阿武隈川の氾濫により19の市町村で約1万1,300世帯に避難勧告が出され、死者11名が及ぶ深刻な事態となりました。
さらに各地で道路やJR在来線がストップするなど、ライフラインの混乱も生じました。

福島河川国道事務所では平成10年災害から10年目の節目をとらえ『“防災”、その教訓を活かし、そして風化させない取り組み』を展開しているところです。
その一環として「地域防災減災フォーラム（10月開催予定）」、「水防ゼミナール（9～11月にかけて4回開催）」、「各種パネル展」を開催し防災に対する知識や日頃の備えを理解して頂き、今後の地域防災力向上に向けた取り組みをすすめてまいります。

また今年度実施している防災に関するアンケートの結果を見ると、以前に災害で被害にあわれたり危険を感じた方々が多いのにかかわらず、日頃の災害への備えをされていない方も約３割程度いることがわかりました。
また、各市町村で作成している「洪水ハザードマップ」を日頃見えるところに置いている方は１割にも満たない結果となっています。この「洪水ハザードマップ」は水害時の浸水区域や避難場所、日頃の備えなどが記載されていますので、内容を確認し、日頃より災害への備えをお願いします。
※福島県内のハザードマップ情報はこちら
http://www.fks-wo.thr.mlit.go.jp/bousai/hazard/index.html

「別紙資料」
・平成10年8月末豪雨による被災状況（福島県分）
・被災状況写真
・繰り返される阿武隈川の災害
・災害に関するアンケート結果の概要（中間報告）
・洪水ハザードマップの例

記者発表先：福島県県政記者クラブ、福島市市政記者会

問い合わせ先：
○国土交通省　東北地方整備局　福島河川国道事務所
副所長（河川）佐々木　秀明（内線２０４）
計画課　課長　井上　秀秋　（内線２６１）

〒960-8584　福島市黒岩字榎平３６　ＴＥＬ　024-546-4331（代表）

【平成10年8月末豪雨による被災状況（福島県分)】

・人的被害（人）

死者	重傷者
11	9

・住宅被害（世帯）

全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	計
50	84	153	1,225	2,725	4,237

・農林水産（千円）

農業	農地	林業	治山	水産	計
4,302,136	15,662,000	2,752,029	5,918,500	482,950	29,117,615

・土木（千円）

河川	公園	砂防設備	急傾斜崩壊防止設備	道路	橋梁	下水道
24,774,987	264,451	704,569	36,410	9,157,280	485,380	67,938

計
35,491,015

※出典
「平成10年8月末豪雨による災害の記録」（福島県）

【被災状況写真】

・阿武隈川と釈迦堂川の合流点
（須賀川市）

・阿武隈川と堀川合流点付近
（白河市）

・金山橋付近（郡山市）

・阿久津橋付近（郡山市）

・江持橋右岸（須賀川市）

・江持橋左岸（須賀川市）

・二本松市

・本宮市（旧本宮町）

【繰り返される阿武隈川の災害】

阿武隈川は福島県から宮城県を縦断し、各都市を結ぶ重要河川です。
古くから水害の記録は数多く残っていますが、近年もたびたび水害が発生しております。
福島河川国道事務所では、今後も引き続き災害防止に向けた取り組みを行っていきますとともに、皆さまにおかれましても日頃より災害への備えをお願いします。

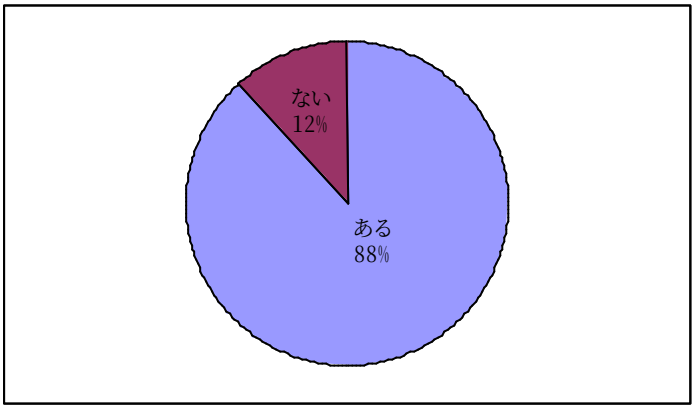
洪水発生年	流域平均2日雨量		実績流量（m3/s）（水位（m））		被害状況	
	福島	岩沼	福島	岩沼		
昭和13年 9月 1日 (台風)	169.5	164.5	3,320	4,430	床下浸水 2,918戸 床上浸水 1,068戸	全 半 壊 79戸 死者負傷者 25人
昭和16年 7月23日 (台風8号)	240.6	228.0	4,310	5,450	床下浸水16,582戸 床上浸水17,708戸	全 半 壊208戸 死者負傷者 69人
昭和22年 9月15日 (カスリン台風)	181.3	170.6	1,880	3,400	床上床下浸水合計 33,470戸	全 半 壊209戸 死者負傷者 38人
昭和23年 9月17日 (アイオン台風と低気圧)	178.0	181.0	3,780	4,450	床下浸水24,558戸 床上浸水18,834戸	全 半 壊737戸 死者負傷者 95人
昭和25年 8月 4日 (台風11号)	126.0	149.2	1,670	3,170	床下浸水17,097戸 床上浸水 8,414戸	全 半 壊686戸 死者負傷者115人
昭和33年 9月19日 (台風21号)	—	157.0	—	(6.72m)	床下浸水29,233戸 床上浸水 9,549戸	全 半 壊 707戸 死者負傷者 68人
昭和33年 9月27日 (台風22号)	143.1	156.7	2,140	4,730		
昭和41年 6月29日 (台風4号)	148.2	138.7	2,340	3,660	床下浸水 —戸 床上浸水 —戸	全 半 壊 —戸 死者負傷者 —人
昭和41年 9月25日 (台風26号とその温帯低気圧)	141.1	130.1	2,200	3,580	床下浸水 — 床上浸水 1,935戸	全 半 壊338戸 死者負傷者 —人
昭和46年 9月 1日 (台風23号)	136.6	154.6	1,710	2,920	床下浸水 357戸 床上浸水 37戸	全 半 壊 1戸 死者負傷者 —人
昭和56年 8月23日 (台風15号)	166.7	164.0	3,010	3,910	床下浸水 176戸 床上浸水 24戸	全 半 壊 —戸 死者負傷者 —人
昭和57年 9月13日 (台風18号)	131.4	140.6	2,950	5,730	床下浸水 4,204戸 床上浸水 675戸	全 半 壊 23戸 死者負傷者 —人
昭和61年 8月 5日 (台風10号とその温帯低気圧)	233.5	248.2	4,140	7,590	床下浸水11,733戸 床上浸水 8,372戸	全 半 壊111戸 死者負傷者 4人
平成元年 8月 7日 (台風13号)	127.2	160.9	1,960	5,240	床下浸水 668戸 床上浸水 412戸	全 半 壊 16戸 死者負傷者 —人
平成 3年 9月19日 (台風18号)	136.1	126.3	2,350	3,170	床下浸水 273戸 床上浸水 79戸	全 半 壊 1戸 死者負傷者 —人
平成10年 8月30日 (停滞前線と台風4号)	215.8	189.5	3,990	5,400	床下浸水 1,713戸 床上浸水 1,877戸	全 半 壊 69戸 死者負傷者 20人
平成14年 7月11日 (台風6号)	220.9	220.6	4,120	6,690	床下浸水 886戸 床上浸水 605戸	全 半 壊 —戸 死者負傷者 —人

※出典　昭和33年以前・・・・東北に影響を及ぼした台風
　　昭和33年以降・・・・水害統計（流域内市町村の合計値）

【災害に関するアンケートの結果概要（中間報告）】

平成20年度に、各種行事にあわせて皆さまの災害に対する意識についてアンケートを実施してまいりました。現在のところ、1078名の方々よりご協力を頂いております。今年度は、今後も各地で同様のアンケートを実施し、来年3月に最終的に取りまとめ、結果を公表する予定です。

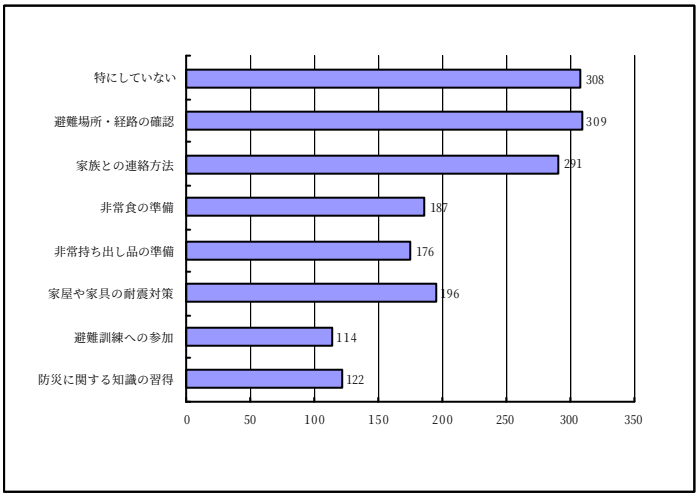
問：以前に災害の被害を受けたり、危険を感じたか？（複数回答）



約９割の方々が、災害を経験したり、危険を感じています。

※無回答除く　回答数 1,214件

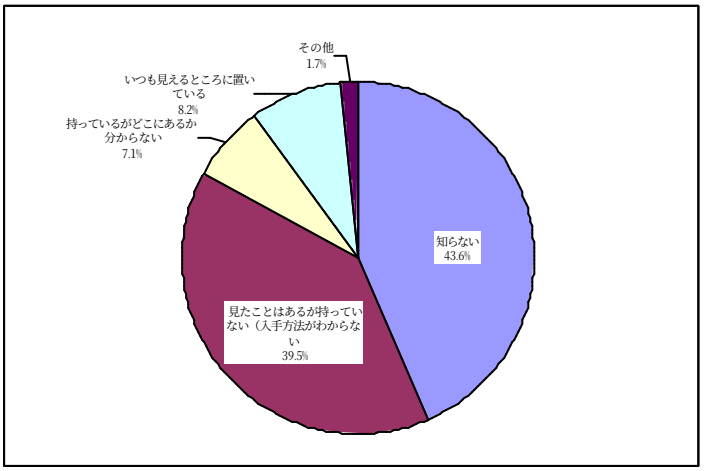
問：災害に備えて何かしていることはあるか？（複数回答）



「避難場所・経路の確認」、「家族との連絡方法」と答えた方が多いなか、「特にしていない」と回答された方も約３割にのぼります。

※無回答除く　回答数　1,703件

問：ハザードマップを知っているか？



災害時の避難行動に必要なハザードマップを「いつも見えるところに置いている」と回答された方はわずか８％となっており、ほとんどの方が緊急時にハザードマップを使えない状況となっています。

※無回答除く　回答数　1,003件

洪水ハザードマップの例

改訂版（北部版）

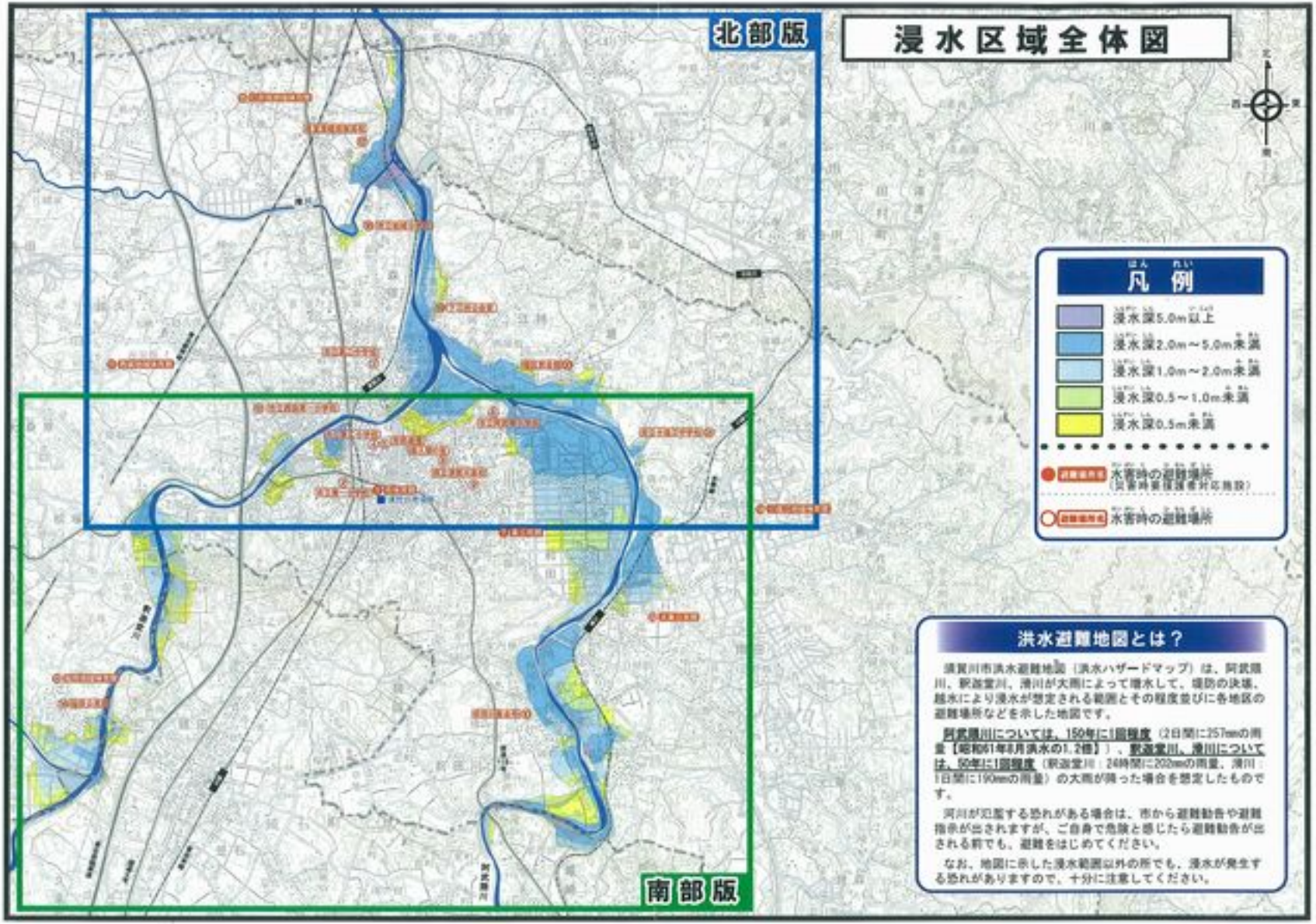
保存版

須賀川市洪水避難地図

（洪水ハザードマップ）

平成20年3月

須賀川市


浸水区域全体図
北部版
南部版
凡例
浸水深5.0m以上
浸水深2.0m～5.0m未満
浸水深1.0m～2.0m未満
浸水深0.5～1.0m未満
浸水深0.5m未満
水害時の避難場所
（災害時要援護者対応施設）
水害時の避難場所
洪水避難地図とは？
須賀川市洪水避難地図（洪水ハザードマップ）は、阿武隈川、釈迦堂川、滑川が大雨によって増水して、堤防の決壊、越水により浸水が想定される範囲とその程度並びに各地区の避難場所などを示した地図です。
阿武隈川については、150年に1回程度（2日間に257mmの雨量【昭和61年8月洪水の1.2倍】）、釈迦堂川、滑川については、50年に1回程度（釈迦堂川：24時間に202mmの雨量、滑川：1日間に190mmの雨量）の大雨が降った場合を想定したものです。
河川が氾濫する恐れがある場合は、市から避難勧告や避難指示が出されますが、ご自身で危険と感じたら避難勧告が出される前でも、避難をはじめてください。
なお、地図に示した浸水範囲以外の所でも、浸水が発生する恐れがありますので、十分に注意してください。

避難時の心得

① 安全な避難路の確認を

避難場所までの経路（避難路）は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。

② 非常持ち出し品の事前準備を

避難するときの荷物は必要最低限とし、事前に準備しておきましょう。

③ 正確な情報収集と自主的避難を

ラジオ、テレビ、インターネットなどで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や川の水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

④ 避難の呼びかけに注意を

市役所や消防団から避難の呼びかけがあった場合には、速やかに避難しましょう。
避難の際には、電気やガスなどの始末と戸締りを行いましょう。

⑤ お年寄りなどの避難に協力を

お年寄りや子供、病気の人は、早めの避難が必要です。近所のお年寄りや子供、病気の人などの避難に協力しましょう。

⑥ 動きやすい服装、2人以上での避難を

避難するときは動きやすい服装で、靴は、履き慣れたものにしましょう。2人以上での行動を心がけましょう。

⑦ 車での避難は控えて

自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになりますので、特別な場合を除き控えましょう。

⑧ 堤防に車を放置しない

水防活動の妨げになりますので、自動車を堤防や道路に放置しないようにしましょう。

避難時の持ち出し品

洪水時の避難には次のものを持って行きましょう。これらのものは、日頃から準備しておきましょう。

必要品チェックリスト

チェック 日付 /	品名	チェック 日付 /	品名
	懐中電灯		貴重品
	携帯ラジオ＋予備乾電池		救急セット
	水		衣類・下着類
	非常食		ローソク＋マッチ
	タオル		ロープ

必要に応じて

チェック 日付 /	品名
	ちり紙
	子供用ミルク、ほ乳瓶、紙おむつ
	ヘルメット
	携帯ナイフ
	使い捨て食器類
	ドライシャンプー
	軍手
	携帯袋
	石鹸
	看護用品

普段の心がけ

1 天気予報や気象状況に気をつける

梅雨時や台風シーズンなど、洪水が起こりやすい時期には、テレビ・ラジオ・新聞の天気予報に注意し、天気の移り変わりに気をつけましょう。

2 非常食や持ち出すものなどを準備しておく

非常食には、調理の手間がかからず、水もあまり使用しないもの（レトルト食品や缶詰等）を選びます。
また、懐中電灯やラジオ、乾電池も忘れずに用意しておきましょう。

3 大雨や台風に備えて家のまわりを点検・整備しておく

家のまわりに吹き飛ばされそうなものはないか、雨戸や雨どいなどは傷んでいないか確認しておきましょう。
また、家の前の排水溝がつまっていないかなどの確認も必要です。

4 避難場所や避難路を確認しておく

この地図には、洪水時に避難する場所が示されています。
自分の地区の避難場所はどこなのか、そこへ安全に行くためにはどう行けばいいのかを確認し、地図に書き込んでおきましょう。

5 一人暮らしのお年寄りなどには気配りを

自分の家族や住まいだけでなく、地域全体にも目を向けましょう。特に、1人暮らしのお年寄りや子供、病気の人たち、及びそれらの人たちが利用する施設には、普段からの気配りが必要です。

雨の降り方を知っておきましょう

やや強い雨

1時間に10～20mmの雨

地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。
長雨になりそうなら、警戒が必要です。

強い雨

1時間に20～30mmの雨

土砂降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。
下水があふれ、また屋根の心配もあります。

激しい雨

1時間に30～50mmの雨

バケツをひっくり返したような雨です。
屋根からもあふれやすく、道路が川のようになる場所もあります。避難の準備を。

非常に激しい雨

1時間に50～80mmの雨

滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。
水害の発生の可能性は大。

猛烈な雨

1時間に80mm以上の雨

息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じるような雨です。大規模な災害の発生する可能性が強く、厳重な警戒が必要です。